

平成14年(2002年)7月25日(木曜日)

ノーベル賞受賞のコーン教授来仙

# 超微小新素材開発で 東北大と共同研究へ

東北大のノーベル賞受賞者招へい事業の第一号とし

て、同大を訪れているノー



ノーベル賞受賞者で米国力  
化学賞受賞者で米国力

リフォルニア大サンタバー  
バラ校物理学科のウォルタ  
ー・コーン教  
授(モリロ)写真  
が二十四  
日、講演に先

立ち、仙台市内のホテルで  
記者会見し、東北大の印象

などを語った。

コーン氏は、スーパーコ  
ンピューターのシミュレー  
ション技術で超微小新素材  
の開発を目指す東北大金属  
材料研究所の取り組みにつ  
いて、「非常に興味深く、  
今後の研究成果に期待して

いる」と述べ、東北大と今  
後、共同研究を進める考え  
を示した。

また、ノーベル賞の受賞  
理由にサンタバーバラ校の  
研究環境の良さを挙げ、「国

際色豊かな研究グループ、  
学際的な研究テーマ、基礎  
と応用の結び付きの強さが  
重要。この点について東北  
大は非常に強いと感じた」と  
話した。

コーン氏は一九六〇年  
代、量子力学に基づき、電

子の状態を近似計算する理  
論を考案。タンパク質など  
の分子の結合状態などが理  
論的に推測できるようにな  
り、ナノテクノロジー、生  
命科学など幅広い分野で応  
用されている。九八年、ノ  
ーベル化学賞を受賞した。